

令和3年度 第2回千代田区図書館評議会 議事要旨

【日時等】

- 〈実施日〉 令和3年10月28日(木) 14:00～14:55
〈場 所〉 千代田区役所 6階 601会議室
〈出席者〉 ◦ 評議会委員(8名)
野口 武悟(会長) 鵜田 拓哉(副会長)
丸山 郁太郎 高山 剛一
木原 一雄 塚田 恭平
福山 伸隆 北島 敦子
◦ 事務局
千代田区文化振興課長 大塚 立志 他3名

【資料】

—当日配付資料—

- 1 令和3年度 第2回千代田区図書館評議会議事次第
- 2 令和2年度の評価方法について
- 3 「開館10周年記念特別展 タイムスリップ・江戸から東京へ
～資料で綴る千代田の風景～」チラシ

—事前配付資料—

- 4 千代田区図書館評議会 令和2年度図書館評価シート
- 5 評議会委員の評価一覧表
- 6 評価シートに関するご意見・ご質問への回答

【次第】

- 1 開会
文化振興課長挨拶
- 2 議題
令和2年度千代田区立図書館運営の評価
- 3 連絡事項
次回日程

【議事経過】

1 開会

＜文化振興課長 挨拶＞

文化振興課長より、挨拶および資料確認を行った。

2 議題

＜令和2年度千代田区立図書館運営の評価＞

- 会 長：「図書館評価シート 総合評価」と「評価方法について」の資料をご覧いただきたい。
本日は「図書館評価シート 総合評価」の「評議会委員の評価」の部分について、
「評価方法について」に基づいて評価値を決定していく。
「評議会委員の評価」欄については、すでに個人の評価を記入していただいているため、これらを総合して、評議会としての評価を決定していきたい。
評価としては、「目標を達成した・目標以上の成果であった」場合には a 評価、
「目標をほぼ達成した」場合には b 評価、「目標をあまり達成できなかった」
場合には c 評価、「目標を達成できなかった」場合には d 評価とする。
まず、“①千代田ゲートウェイ”については、a 評価をつけた委員が1人、b
評価が7人、c 評価をつけた委員はいない。8人の委員のうち、b 評価をつけた
委員が7人となっているため、評議会としては、b 評価としてよいか。
(異議なし)
- 会 長： それでは、“①千代田ゲートウェイ”については、b 評価とする。
続いて“②ビジネスを発想するセカンドオフィス”であるが、a 評価はいない。
b 評価が7人、c 評価が1人となっている。こちらもb 評価でよいか。
(異議なし)
- 会 長： では、“②ビジネスを発想するセカンドオフィス”についてもb 評価とする。
続いて“③区民の書齋”については、a 評価が2人、b 評価が6人、c 評価は
いない。こちらもb 評価でよいか。
(異議なし)
- 会 長： では、“③区民の書齋”についてもb 評価とする。
続いて“④クリエイトする書庫”であるが、a 評価はおらず、b 評価が7人、
c 評価が1人となっているので、こちらもb 評価としてよいか。
(異議なし)
- 会 長： では、“④クリエイトする書庫”についてもb 評価とする。
続いて“⑤ファミリーフィールド”についても、a 評価はおらず、b 評価が7
人、c 評価が1人となっているので、こちらもb 評価としてよいか。
(異議なし)
- 会 長： では、“⑤ファミリーフィールド”についてもb 評価とする。
最後に“⑥管理運営等”については、委員8人全員がb 評価となっているため、
b 評価とする。
では、改めて6つの評価項目ごとの「評議会委員の評価」は、
① 千代田ゲートウェイ b 評価

- | | | |
|---|-------------------|------|
| ② | ビジネスを発想するセカンドオフィス | b 評価 |
| ③ | 区民の書斎 | b 評価 |
| ④ | クリエイトする書庫 | b 評価 |
| ⑤ | ファミリーフィールド | b 評価 |
| ⑥ | 管理運営等 | b 評価 |

というように、すべて b 評価に決定する。

それでは最後に「指定管理者の自己評価」「評議会委員の評価」の2つの評価から「総合評価」を確定していきたいが、今回はどちらも b 評価ということで、「総合評価」としても全項目、B 評価になる。

念のため、1 項目ごとに確認すると、

- | | | |
|---|-------------------|------------------|
| ① | 千代田ゲートウェイ | 総合評価 B (平均点 2.0) |
| ② | ビジネスを発想するセカンドオフィス | 総合評価 B (平均点 2.0) |
| ③ | 区民の書斎 | 総合評価 B (平均点 2.0) |
| ④ | クリエイトする書庫 | 総合評価 B (平均点 2.0) |
| ⑤ | ファミリーフィールド | 総合評価 B (平均点 2.0) |
| ⑥ | 管理運営等 | 総合評価 B (平均点 2.0) |

となる。よって、総合評価もすべて B 評価で確定したい。

この評価シートについては、区の評価と合わせて「令和2年度千代田区立図書館運営評価」として冊子にまとめたのち、公表する予定である。

- 会 長： 続いて、評価シートの各項目に対する各委員の意見等については、事前に集約され事務局から配付されているが、質問・意見があれば、お願いしたい。
- 委 員： 令和2年度はコロナ禍のため数値だけを見ると、令和元年度より明らかに低いので、評議会の評価として、ただし書きで「コロナ禍に鑑みた評価とする」などの一文を加えることはできないか。
- 会 長： 文章のなかで説明を加えることは必要であり、さらに、一覧表などにも添え書きを加えたほうがよいと考える。
- 文化振興課長： 評価というものは、今後のサービスの向上や図書館運営を改善していくための大切なものである。そのため、区民の方にも分かりやすく説明を加える。
一年半以上続いているコロナ禍で、図書館も制限が加わり管理・運営に困難を極めた。そのなかで各項目の実施状況等は記述により示され、それに対して各委員から貴重なご意見・ご提案もいただいている。指定管理者には、単に最終的な ABC 評価だけではなく、各委員からの具体的な意見も示していく。
- 会 長： 令和3年度の評価について、どう考えるかは次回以降になるが、With コロナの状況の取り組みを考えると、令和2年度と数値的な比較は、比較的しやすい状況とみることできる。しかしながら令和4年度以降、After コロナになった時に、その際の評価は With コロナの状況下との比較でよいのか。また、コロナ禍になる以前と比較すればよいのか。という少し間が空いてしまっていて、単純比較もしづらい。そういう意味では、ただ単に数値的なものだけでなく、各委員の判断になるが、質的な評価も重視していくことが大切である。

文化振興課長： 記述による評価はどうしても抽象的になる部分もあるかもしれないが、非常事態が続いている状況ではやむを得ない。そこで、各委員のさまざまなご意見をどう受け止めて反映できるか、評議会自体の存在意義にもかかることであり、行政としても何のために設置して区立図書館の運営に反映するのか、問われると考えている。With コロナから After コロナでの評価も考えていかなければならない局面がすぐ来ると認識している。

委員： With コロナの時代が続くと思うので、令和3年度の評価には、コロナ対策を指定管理者がしっかりできているか。さきざきを見据えた内容の評価項目を練っていった方がよい。

文化振興課長： コロナ対策は、区としても試行錯誤しながら行っている。さまざまな施設でクラスターが発生した時期は非常に緊張感があった。今では施設が感染防止対策をきちんとしている。幸い図書館ではクラスターは起きていない。

委員の意見は令和3年度評価を行う時に、コロナの状況がどうなっているか、その時の状況判断もあるが、予断を許さない状況が続いていけば、そのような視点を加えるのは当然だと考える。

委員： 閲覧席 50%制限というのは、区から要請するのか。指定管理者が判断して行うのか。どうなっているのか。

文化振興課長： 基本的にコロナ対策については、区でも区長を長とした災害対策本部を設置している。そこで国・都の方針・基準を踏まえ、各施設の状況を把握し、区としての運営方針を決定している。図書館の場合は周辺自治体も厳しめに設定している。劇場・映画館などに比べれば、感染リスクは低い施設であるが、当区では閲覧席を制限したり、長時間の滞在の自粛をお願いし利用は2時間以内に制限したりした。各自治体でも施設ごとの判断はあるが、基本は国・都の方針に沿っている。また、各施設が図書館協会などの団体が出している感染防止対策のガイドラインに沿って対策を講じている。

緊急事態宣言が解除され、ほぼ通常の運営に戻ったが、区では引き続き入館時の検温と手指消毒、閲覧席の感染防止アクリル板等の対策は取っている。

委員： コロナ禍のなかでもコンシェルジュサービスを続けていた。コロナ禍で、もう少しコンパクトな運営になるのかな。と思っていたが、イベントに関してはやれる限りのことはやっている。というのが正直な感想である。数値的にはアスタリスクが付くような状況ではあるが、前の状況も振り返りながら評価を行っていく必要があると考える。

委員： 今回の評価については、各委員がある程度目標を達成していなくても、こういうことで評価しましょう。というある程度救い上げようという意識が働いたのではないかと感じる。しかし、それが今度はプラスになる、上乘せにならなければいけない時にどうするか。今後、より厳しくしていこうという視点を持つということは、なかなか各委員共通では持ちにくい気がする。

そこで、一つは修正目標をどう設定するのか。もう一つは数値目標で、例えば、今までは105%や110%で達成としていたものを、極端な言い方をすると120%でないと達成とは見なさない。というものも出てくる。今も物理的に開館時間や定

員など操作しており、数字は跳ね上がらなければいけない。それを前年度比で見た時には105%や110%ではない、という設定は、それぞれの評価項目を吟味したうえで個別に見ていかなければいけない。そのためには、ある程度目安を示して、救い上げるのは容易であるが、これは厳しく見るというものについては、評議会委員が合意のうえで決めた方が良く考える。

会 長： 次回または次々回の評議会での意見を検討し議論できればと考えている。

文化振興課長： 次回の評議会には、その意見の検討になると考えている。

委 員： 評価の部分で、前年度比較だけでは評価がつけにくい状況にある。そういう時に他区や全国と比較して、全体の中でどのくらい目標や項目を達成できたのか、検討できればよいと考えている。それに当たっては指標の精選が必要と考えている。また、コロナ禍によって、Web 図書館(電子書籍)への要望もかなり高くなっていると思うので、新たな取り組みにも、項目として設定が必要と考えている。

副 会 長： コロナ禍の状況で、図書館も制限しながらも開館していたので、気持ち的には a 評価をつけたいが、現実的なことをみると難しい。また、少し数値が下がったから c 評価という訳にもいかない。そこで、一番バランスが取れた評価として、b 評価とした。しかしながら、コロナ禍の状況でも数値が上がったものは、上がっている。全部が全部下がっている訳ではない。さらに、その上がった下がったにも、コロナ禍だから上がった下がったというものと、それ以前の問題として関係なく変化する要素の場合もある。令和3年度に向けて、その要素にも短期的に見られる部分と長期的に見ていった方がよい部分があると思うので、評価について各委員と考えていきたい。

会 長： Web 図書館については、コロナ禍で図書館が閉まっている時に利用できるサービスとして非常に注目を浴びた。千代田区は全国に先駆けてWeb 図書館の提供を始めた自治体なので、区民からは以前から注目されていたが、より一層、注目されて利用が伸びたという側面がある。しかし、通常図書館サービスに戻った時に、もし伸びていたものが横ばいになったり、急に減少するようなことがあった場合に、それをどう捉えるのかが重要だ。

Web 図書館は、通常サービスの代替という位置づけで捉えられがちだが、やはりこれからはデジタル時代にふさわしい一般の、あるいは当たり前のサービスの一つとして、After コロナになっても利用してもらうようにしていこうという考え方もできると思う。ただし、図書館側の考えもあるが、評価する委員の側もどう捉えて評価していくのか、Web 図書館のみならず、それぞれの項目について、スタンスを統一しておく必要がある。

委 員： Web 図書館の利用者は年代別の分析はできるのか。

文化振興課長： 統計資料として、今、示すことはできないが、できると思われる。

委 員： デジタルデバイスという課題もあるが、親密感のない高齢者に対し Web 図書館をきっかけにタブレットなどに接する機会を増やしていく働きかけもできるのではないか。

文化振興課長： 図書館では、Web 図書館の講座を開催している。区としても来年度以降、デジタル化の取り組みを加速させる。高齢者だけでなく子どもたち・障害者にも対応

してもらえよう、利用者の目線に立って取り組みを進めていく。

3 連絡事項

文化振興課長： 次回、令和3年度第3回の図書館評議会は、年明け1月下旬の開催を予定している。詳細については事務局より追って連絡する。

以上で第2回千代田区図書館評議会を閉会とする。